

調和

解冤相生と経済理念の調和

大巡思想の中和的功利主義の労働観と経済理念



解冤相生思想が現代の経済理念危機の代案としてどのように作用するかを考察し、大巡思想の中和的功利主義が提示する経済理念の調和について論じる。

中和的功利主義の労働観と経済理念の調和

中和的功利主義の労働観の概念

大巡思想が提示する経済理念の新たなパラダイム



儒教資本主義の循環性と功利主義の結合

最初の公益の実現という経済理念の問題を解決しようとして成立した儒教は、西教の積極的な博愛精神と結合し、資本主義や共産主義のような功利主義へと発展

「大巡思想において労働・生産は循環の結果であるため、循環を妨げない限り、生産に対する欲望は中和性(中和性)によって非常に強調される」



最大多数の最大幸福と少数への配慮

功利主義は最大多数の最大幸福を追求するが、中和的功利主義は少数の犠牲を戒め、彼らを配慮する倫理を強調

「一人が怨恨を抱いても、天地の気運が塞がる」-『典経』公事3章29節



冤(冤)と解冤(解冤)を通じた相生の循環的構造

多数者による少数者の被害を冤(冤)といい、多数者の少数者に対する配慮を解冤(解冤)といい、これを通じて相生の循環的経済構造を形成

「中和的功利主義は、冤(冤)よりも解冤(解冤)を前に置いた」

解冤相生と経済理念の危機

現代の経済理念の限界と解冤相生による代案の模索



資本主義と共産主義の理念的限界

公益の拡大という経済理念を喪失した資本主義は貧富差の極大化に、共産主義は成長停滞に埋没し、経済理念の危機を招来

「資本主義を生きる現代人は理想を諦め、人間的な自尊心に傷を負い、夢が挫折した日々を耐え抜き、何ら積極的な公益を実現できずにいる。」



市場の循環性と少数者への配慮による調和

大巡の中和的功利主義は、ただ政治的多数決のみを強調した西洋の功利主義とは異なり、市場の効率性の向上と循環性に立脚し、経済理念危機の代案を提示

「大巡思想において効率は経済循環のための核心的な鍵であるため、市場制度内的な効率性を否定し、政治的に別の代案を掲げる功利主義的政治を非常に批判する。」



解冤(解冤)を優先する分配と労働の哲学

革新よりも解冤を優先する大巡思想は、少数者に対する配慮を優先する分配と労働の哲学を提示し、これを通じた持続的な循環構造を強調

「中和的功利主義は、少数への配慮と多数の利益の選択のうち多数の選択を優先する功利主義とは反対に、少数者に対する配慮倫理を優先して提示する解冤相生を示す。」

現代的示唆および結論

解冤相生思想が提示する経済理念の調和と実践方策



社会的安定の基盤の提供

大巡思想の解冤相生は、資本主義と共産主義の理念的対立を超えて、経済理念間の調和と社会的安定の基盤を提供する。

「中和的功利主義において、自らの誠実・敬虔・信念を人は知らずとも天は知るであろうと信じ、他人をよく成らせる人間像は、自由至上主義と社会契約主義、共同体主義をすべて包括して経済理念を調和させる。」



中和的な生産・分配観の確立

多数と少数の利益をいずれも配慮する中和的な生産・分配観を強調し、経済的循環と効率性を同時に達成する。

「中和的労働観においては、多数の利益も少数の利益もすべて一つとみなされる。自分がよく成るには、自分がまず与えればよい。宇宙は循環するので、共同体が配慮した財富は再び共同体へと戻ってくる。」



現代の経済危機の代案

貧富格差、成長停滞、自尊心の喪失など、現代経済の危機に対する代案として、解冤相生の実践的な経済倫理が必要である。調和

「資本主義を生きる現代人は理想を諦め、人間的な自尊心に傷を負い、夢が挫折した日々を耐え抜いている。中和的功利主義は、市場の効率性の向上という公益の原初的な力の復活を、現代の経済理念危機の代案として提示する。」